

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

| | |
|-------------------|---|
| 審議会等の名称 | 第25回 西脇市子ども・子育て会議 |
| 開催日時 | 令和5年11月29日（水） 午後1時30分から3時まで |
| 開催場所 | 西脇市役所 委員会室 |
| 出席委員の 氏名又は人数 | 11名 |
| 欠席委員の 氏名又は人数 | 4名 |
| 出席職員の職・ 氏名又は人数 | 事務局11名 |
| 公開・非公開 の別 | 公開 |
| 非公開の理由 | — |
| 傍聴人の数 | 3名 |
| 議事又は 報告事項 | 1 令和5年度の市組織改編について 2 第2期西脇市子ども・子育て支援事業計画の 進捗及び検証について 3 （仮）西脇こども計画（第3期子ども・子育て 支援事業計画）の策定について 4 その他 |
| 会議の記録（概要） | |
| 事務局 会長 | ○開会 ○福祉部長挨拶 【報告】 <令和5年度の市組織改編について> 資料1に基づき、事務局から説明 質問等あればお願いします。 |

| | |
|-----|--|
| 会長 | <p>これまでの子育て応援ステーション「はぴいく」とは何がどう違うのか。</p> |
| 事務局 | <p>これまでと違う点は、乳幼児健診や子どもさんの発達等に係る相談事業（母子保健事業）を健幸都市推進課が健康づくり事業と一体的にしていたが、それを子ども福祉の方にもってきて、児童虐待等の対応をしている所管と一体的に、もっと小さい年齢から心配な家庭を把握し、虐待防止につなげるような取組を行っていくということが大きな相違点だと思っている。</p> |
| 委員 | <p>この組織改編により、母子保健と家庭支援が一体となりはぴいくサポートセンターができたが、先日、丹波篠山市で主任児童委員のフォーラムがあり、新温泉町と丹波市の主任児童委員の発表があった。主任児童委員が赤ちゃん訪問に行かれている市町が多いが、西脇市では保健師が行かれるということで、支援が必要な家庭には家庭児童相談員と行かせてもらったことがあった。私たちとしては、できるだけ早い時点で、支援が必要な親子と出会いたいと考えている。今回このように一つになったのでいい機会ではないかと思う。健診に来ない、来ることができない状況にある親子にこそつながりたい。そこからサポートしていかないと、小学校に入ってから不登校になった時点とか、貧困で家の状態がよくないことを聞いてからでは、なかなか支援することは難しい。できるだけ早い時点で、お母さんが子育てに困っておられる時点でつなげていただけるといいのではないかと思う。</p> |
| 事務局 | <p>主任児童委員さんには、市の職員にはできないような、きめ細かな対応をしていただいているので、心強いと感じている。はぴいくサポートセンターになってから、乳幼児健診や母子手帳の交付等、妊娠時に聞き取りする中で心配な家庭を抽出し、継続して支援しているが、主任児童委員さんにお世話になった方がいいと思う家庭をつながせていただく予定にしているので、今後ともよろしくお願いしたい。</p> |
| 会長 | <p>赤ちゃん訪問をして気になる家庭があり、データと</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>してあがったところとつなげてほしいということだと思ふ。</p> |
| 事務局 | <p>そのようにさせていただく。</p> <p><第2期西脇市子ども・子育て支援事業計画の進捗及び検証について></p> |
| 事務局 | <p>資料2-1・2-2、資料3に基づき、事務局から説明</p> |
| 会長 | <p>質問等あればお願いします。</p> |
| 委員 | <p>こども未来応援事業や子育て世帯訪問支援事業で、必要などころに必要な情報が届いているのか。広報の方法を教えてください。</p> |
| 事務局 | <p>こども未来応援事業は、先ほど説明した、就学援助を受けられる家庭ということが要件となっている。こども政策課ではその家庭の状況が分からないので、学校で小学6年生から中学3年生までの全家庭にチラシを配布したことが、最初の広報である。後は就学援助の申請に来られたタイミングで、こども政策課につないでいただき、申請の案内をしているということで、現在、6割を超える方にクーポン券の交付をしている。利用は少しそれを下回るが、必要な方には情報が届いているのではないかと思う。</p> |
| 会長 | <p>子育て応援アプリの登録件数 627件は必要な対象家庭の何パーセントくらいなのか。</p> |
| 事務局 | <p>昨年4月から始まり、本年4月時点では約400件弱ほどの登録だった。本年は啓発等をしながら登録をお願いしている。妊娠届を提出する際にアプリを登録いただければ、結果として全ての人に登録いただくことにつながるのではないかと考えている。現在の普及率は、5歳児までで5割くらいだと認識している。</p> |
| 会長 | <p>広報としては今言われたようなかたちしかしていないのか。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 広報については、母子手帳交付時と健診の時に必ず話 をしている。 |
| 会長 | 使われる方の評判はどうか。 |
| 事務局 | こどもプラザのイベント情報や予防接種の通知などを 配信している。予防接種の通知では助かったという声 をいただいている。 |
| 会長 | 後ほどまだ説明があるかもしれないが、西脇こども会 議の説明をお願いします。 ＜令和5年度 西脇こども会議の開催について（そ の他(2)）＞ |
| 事務局 | 資料8に基づいて説明 |
| 会長 | 我々も傍聴は可能なのか。 |
| 事務局 | 可能である。 |
| 会長 | 他に質問等がないようなので次の(3)（仮）西脇こど も計画（第3期子ども・子育て支援事業計画）の策定に ついての説明をお願いします。 ＜（仮）西脇こども計画（第3期子ども・子育て支援 事業計画）の策定について＞ |
| 事務局 | 資料4-1・4-2、資料5-1・5-2・5-3、資料6に基づい て説明 |
| 会長 | 質問等あればお願いします。 |
| 委員 | ニーズ調査の最終的な落としどころについての展望 はあるのか。 |
| 事務局 | ニーズ調査ではなく、市の施策についての質問かと思 うが、ニーズ調査は今後の教育・保育等の見込み量 を出すためのもので、今後5年の見込み量を出すとい |

| | |
|-----|--|
| | <p>うことが落としどころということになり、今後の策定に活かしていくことになるかと思う。ニーズ調査以外に関しては、調査の結果、西脇市に足りているものと足りていないものを精査しながら今後の施策の方向性を導き出したいと思っている。</p> <p>居場所や相談、子どもの権利等は新たに調査させていただき、今後どのような事業や施策が西脇市に必要なのかを考えていきたいと思っている。</p> |
| 委員 | <p>調査対象者に関して、子どもの意見を聞くとあるが、対象のアンケートは保護者の調査票に同封となっている。そのため本当に困っている子どもの意見は言い難いこともあって、返って来ないのではないかという気がする。学校で配布されたタブレット等を使って授業の中で意見を言ってもらえば、いじめやヤングケアラーなどの話も聞けるのではないか。保護者に案内しても都合の悪いものは返ってこないなど、子どもの本当のニーズは見えてこないのではないか。</p> <p>もう1点、資料5-2の利用したい保育事業に関して「こども誰でも通園」という名称について、誰でもという文字どおり、誰でもいつでも行けるという印象を受けるが、実際は違う。そのため「こども誰でも通園に行きたいですか」ではなく、表題を変えていただけたらと思う。</p> <p>病児保育や一時預かりなどは就学前児童も小学生も利用者がおられるので、就学前児童と小学生の質問を合わせた方がよいのではないかと思う。</p> |
| 事務局 | <p>「こども誰でも通園制度」は名前が独り歩きして、委員のご指摘のとおり誰でもいつでもという印象を与えてしまうと思う。幼保連携課とも相談しながら表題については検討させていただく。</p> <p>病児保育や一時預かりに関しては就学前児童と小学生を合わせたつもりだが、違いがあったところは精査する。</p> |
| 委員 | <p>子ども・若者用調査票の方で、マスメディアや国で調査されているものを参考にして質問項目を考えているということだが、それを敢えて西脇市で聞くという</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>のは、全国の意向と西脇市との相対的な差を知りたいという趣旨なのか。</p> <p>今回はじめて調査を行うので調査項目を考えたところ、国の調査と西脇市の調査でどのような違いがあるのかを見るのが第一と思いこのようにさせていただきました。</p> |
| 委員 | <p>政策にいかに役立てるかという観点から全国との違いを知るというのは有意義かと思う。意見として2点あり、まず1点目、小学生アンケートは4年生から6年生までが対象となっているが、小学生が理解できるだろうかという点がある。問16、問17などは私も興味があるが、質問方法が脚注形式となっている。小学生はおそらく脚注を読まないのではないかと思う。質問方法を工夫して、例えば脚注の内容を問題文の方に記載し「西脇市はみなさんの生活をよりよくするために色々なことに取り組んでいます。これについてどのように思いますか。」などとすれば小学生にも読みやすいかと思う。また小学生を直すのであれば中学生も同様に直したらいいかと思う。</p> <p>もう1点、保護者用アンケートは非常に調査項目が多い。「この回答には～分かかります」等の見込み時間を最初に書いておく等の工夫をしたらどうか。</p> |
| 事務局 | <p>事務局としても小学生の調査票はどこまで理解できるだろうかと思っていたので意見を踏まえ修正する。所要見込み時間も回答につながるように記載したいと思う。</p> |
| 会長 | <p>質問も子どもの目線でやっていただけたらと思う。</p> |
| 委員 | <p>指摘のあった設問は親でも難しい所があると思っていたので、改善していただけるならお願いしたい。高校生アンケートは西脇市の印象など、他と比べて設問が多くなっているが、果たしてどれだけ答えてもらえるか、どれだけ西脇市と向き合っているだろうかというのが正直な意見としてあり、このようなアンケートを機に向き合ってもらえたらと思う。保護者の調査票</p> |

| | |
|-----------|---|
| | <p>に子どもの調査票を入れると、子どもの意見やニーズが出てこない可能性があるとの意見があったが、私は同封して一緒にアンケートを考えていくというのも一つの手かと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>赤ちゃんが生まれるまでの過程、生まれてからの過程において、細かく分かれて手を差し伸べていることに感心した。私自身、子どもの食生活が大切だと思っている。子どもの小さいころから保護者に対して食生活の大切さを専門職が伝えることや、家庭の経済状況は様々であるが、保護者が作る食事が大切であると思っている。</p> |
| <p>会長</p> | <p>相対的貧困は平均収入の半分以下の家庭をいうが、OECD中で日本は最も高くなっている。親が食事を提供するということも大事だが、様々な事情でそれができない家庭があるのも我々は理解しておく必要があると思う。</p> <p>西脇市の印象については、毎年1回、中学校で、中学3年生に対して地域医療のことについて話をしているが、冒頭中学生に「西脇市が好きか」「西脇市に住みたいと思うか」といった質問をしてもほとんど手が挙がらない。西脇市に対する肯定感が全くない。そこで西脇市についての説明をすると西脇市に対して肯定的な答えが形だけでもかえってくるので、西脇市をアピールできるような政策を入れてもらいたいと思う。</p> <p>もう1点、資料4-2にこども大綱の中間案が出ており、その中に「こども大綱が目指す『こどもまんなか社会』」とある。文中に出てくる「バイオサイコソーシャル（身体的・精神的・社会的に）ウェルビーイング（幸せな状態）」という言葉は、小児科医の合言葉となっている。この提唱者に東京大学小児科教授五十嵐隆先生がおられるが、この言葉を題目に小児科医は活動をしてほしいと常々おっしゃられている。この言葉はこれからも出てくると思うので、皆様も心掛けて活動してほしいと思う。他に質問がなければその他に移る。</p> <p><「こどもまんなか応援サポーター」宣言について</p> |

| | |
|-----|--|
| | て、第14回市民フォーラム（西脇こどもまんなかデー）の開催について＞ |
| 事務局 | 資料7、9に基づき、事務局から説明 |
| 事務局 | 市民フォーラムには、小さいお子さんにも参加いただけるようにマットなどを敷いて観覧できるスペースを作っている。そういった方へもお声掛けいただけたらと思う。 |
| 会長 | 私も市民フォーラムに関わっているので、是非ともよろしく願いしたい。西脇市民でなくてもよいので多くの方にお声掛けいただければと思う。 |
| 委員 | 「こどもまんなか応援サポーター」宣言にサポーターとして活動いただける事業者を募集とあるが、商工会等はやられているか。 |
| 事務局 | 10月29日にサポーター宣言をし、これから商工会や事業所へお願いに上がりたいと思っている。個人での活動も歓迎しているので、皆様、発信いただければと思う。 |
| 委員 | 他市の話だが、大きなポスターに、割引や優先のアピールがあり、市の名前とのぼりがあるものを見て感心した。そういうものがあると子育てしやすい市なのだと思えるのでそういった方法も検討いただければと思う。 |
| 事務局 | 今は県の「ひょうご子育て応援の店」しかないので、数を増やすとか市独自のものを作っていくといったことは検討したいと思う。 |
| 会長 | まだ時間はあるので、西脇市の政策以外にも子ども・子育てについてのご意見があれば願います。 |
| 委員 | アンケートの件について、小学校の教師という視点からだと小学生でもおそらくできる。ただ、どのような目的でどういった回答を集められたいのかということ |

| | |
|-----------|--|
| | <p>とに応じて調査方法は変わってくると思う。私なら子どもたちに考えてもらうとすると、授業でこども条例の話をして知った上で、子どもたちに問いかける形をとる。</p> |
| <p>委員</p> | <p>先日講演会でラップをかけられない42歳の女性の話を聞いた。どういう風に教えていけば子どもができるようになるのか分からないし、共働きだと子どもとの時間を作ることが難しいので、集まれる場所や情報を知る場所や機会があれば意見交換に繋がっていいかと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>広報の方法が問題で、必要な情報を必要な人に届けるということが大事だと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>今は SNSが主流で手紙だと忙しくて見られない場合もある。そのためネットで情報が得られたらと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>そういう意味だと西脇市のアプリは結構いい情報が入ってくる。しかし、ご存じない市民の皆さんには届いていないので知名度の低さが問題だと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>週1回みらいえのみなみ会に行っているが、そこでは1歳半くらいまでのお子さんを連れのお母さんやお父さんが西脇市以外からも結構来ておられる。いろんな設備やおもちゃがあって小さいお子さん連れの方には好評である。一方で、みらいえができた当時はよく利用していた小学生たちが、コロナを挟んで減っている。また、2年生以上になると6時間目まで授業があり、小学生の利用がとても減っている。そこで気になったのだが、みらいえは通学路になっているようだが、下校途中に寄れるといいのではないかと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>小学生の児童にみらいえ、特に図書館をもっと利用してほしいと思う。もう1点、学童保育に関して、ベトナム籍の子どもと関わっているが、ベトナムと日本のしつけは違うし、保護者が学童保育に望むことも違う。そのため、様々な学童保育のあり方や学童保育を利用していない子どもの家での過ごし方など何かいい</p> |

| | |
|----|---|
| | 方法はないかと考えていただきたい。 |
| 会長 | みらいへの利用の仕方も他にいろいろあるかもしれない。先日平田オリザさんの講演で、みんな違って大変だという言葉聞いた。これからは多様性に則った子育てを考える必要があるかもしれない。 |
| 委員 | 情報発信に関して以前から感じていたが、必要な人に必要な情報が届くような情報発信は行政に頑張ってもらいたいと思う。一時的に預かってもらう制度も公になっていない気がする。多忙のため迎えもままならない保護者もたくさんおられる中で、そういう方が民間の力を借りられるシステムがあるということ、多くの方に知ってもらえる情報発信をお願いしたい。今まで西脇市は比較的高齢者に目を向けている印象があったが、子どものことにこれだけ細かく目を向けていることが今回この会議で分かってうれしい。 |
| 委員 | 小学生の娘がいるが、登下校の際に見守り隊の方があまりおられず、完全に一人で帰っている状態である。ガードレール等もなく道も危ないので、家におられる方が見守りに出やすくなるような行政防災無線でのアナウンス等があればいいと思う。 |
| 会長 | 西脇市全体で子どもを育てやすい環境になればいいと思う。 |
| 委員 | <p>少子高齢化とはいえ、子ども、高齢者のどちらも大事である。子どもがこれからの西脇市を担っていくという点には異論がないところだと思うので、どう育てていくかだと思っている。地区でも子どものケアに気を付けるということは区長会でも各区長にお話しし、各地域の住民への呼びかけを促している。地域住民がそういう気持ちをもっていることをご理解いただければと思う。</p> <p>もう1点、こども会議について、選抜は大体何でもやる子が選ばれると思うが、そういった子だけでいいのかどうか、言いたくても言えない子の意見も得られるような子ども会議であればいいと思う。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>地域福祉というと高齢者や障害者が主だが、フードドライブ等を始めたところ生活困窮の若い保護者等多数来られ、何か支援ができないかをアンケートの結果も含め考えていかなければならないということが1点と、情報発信をしても知らない方は多数おられるので、いかにうまく伝えるかというのは課題であり、探す方のスキルも大事かと思うので、高齢者の方へのスマホ教室等も参考にしたいと思う。利用者の方に伝わらないというよりは見ていただけないというのは、なかなか難しい課題かと感じている。</p> |
| 会長 | <p>お年寄りの方と子どもたちが触れ合う機会というのはあるのか。</p> |
| 委員 | <p>あまりない。子どもがいますとお年寄りも喜ぶので何かしらのイベントを行いたいと考えている。</p> |
| 委員 | <p>広報の仕方が話題に上がったが、それはあらゆる事業者や企業、自治体にとっての共通の課題である。完全な回答というのではない。現在のツールとして、SNSは外せない。全戸配布されるようなチラシや市民だよりは結構見るのでそこからSNSに誘導するというのも必要である。また、市長に大いに発信してもらいたい。最近トップの仕事は発信することとなっており、発信したところに人が集まっていくところがある。西脇市の市長は子ども・子育て政策に力を入れていると感じる。SNS等で発信していけば若い保護者の皆さんのフォローが集まることとなると思うので、お願いしたいと思う。</p> |
| 会長 | <p>市長はFacebookで発信しておられるが、そのことを知らない方も多と思うので、まずはそこから発信していかなければならないと思う。広報の形を問題提起していただいたので政策に反映していただけたらと思う。次回会議の協議内容はどのような予定か。</p> |
| 事務局 | <p>次回は今回のアンケート調査の集計結果とそこから見えた課題等を協議内容とさせていただきたい。</p> |

| | |
|------|---|
| | <ul style="list-style-type: none">○教育創造部長挨拶○閉会 |
| 問合せ先 | 西脇市福祉部こども政策課 電話：0795-22-3111（代） |